

6 スポーツ

-
- (1) 日常的な運動・スポーツの実施状況
 - (2) 継続的に実施している運動・スポーツ
 - (3) 障がい者スポーツへの意識・行動
 - (4) スポーツボランティア活動への意識・行動
 - (5) 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた区の実施計画で関心があること
 - (6) 区のスポーツ施設における高齢者免除制度に関する意識
-

6. スポーツ

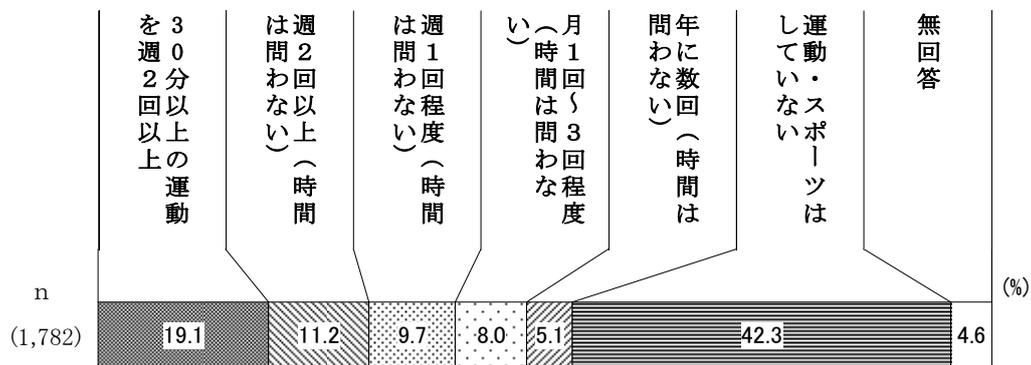
(1) 日常的な運動・スポーツの実施状況

■ 「運動・スポーツはしていない」という方が4割を超える

問22 あなたは日常的に、どの程度運動・スポーツを行っていますか（○は1つだけ）。

※ ルールにもとづいて勝敗や記録を競うスポーツだけでなく、健康づくりのためのウォーキングや気分転換に行う軽い体操、自然に親しむハイキング、介護予防のためのトレーニングなど、目的をもった身体活動の全てを含みます。

図6-1-1 日常的な運動・スポーツの実施状況



日常的に行っている運動・スポーツについては、「30分以上の運動を週に2回以上」が19.1%で最も高く、以下「週2回以上（時間は問わない）」（11.2%）、「週1回程度（時間は問わない）」（9.7%）の順で続いている。一方、「運動・スポーツはしていない」は42.3%を占めている。

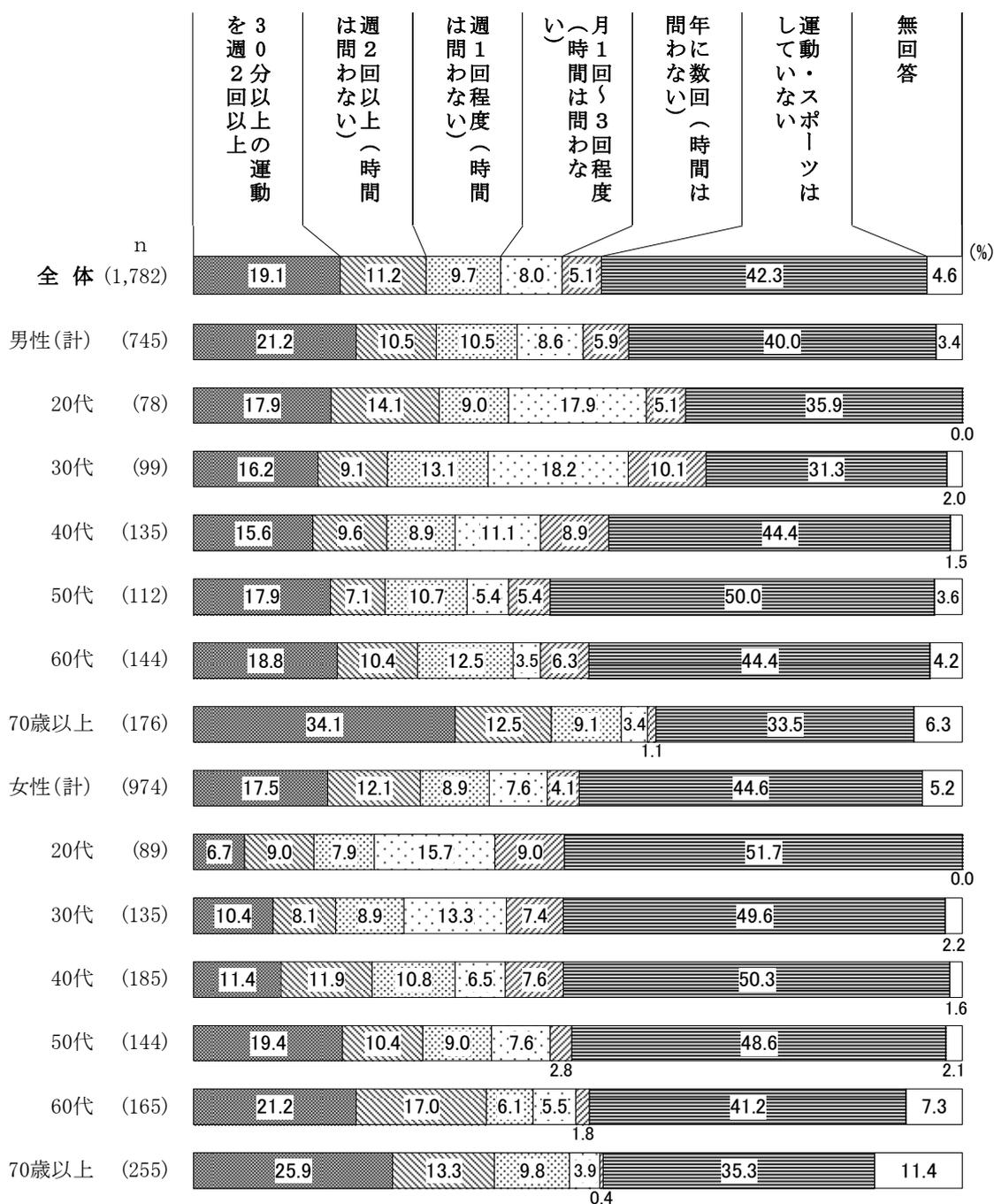
第3章 調査結果の分析 〈スポーツ〉

性別で見ると、男性では「30分以上の運動を週に2回以上」が21.2%と、女性（17.5%）を上回っている。

性・年代別で見ると、男性では、70歳以上で「30分以上の運動を週に2回以上」が34.1%と、他の年代より高くなっている。一方、40代から60代では「運動・スポーツをしていない」が4割を超え、とくに50代では50.0%となっている。

女性では、70歳以上で「30分以上の運動を週に2回以上」が25.9%を占めているほか、50代、60代でも2割前後となっている。一方、20代から50代では各年代とも「運動・スポーツはしていない」が5割前後を占めている。

図6-1-2 性別、性・年代別／日常的な運動・スポーツの実施状況



(2) 継続的に実施している運動・スポーツ

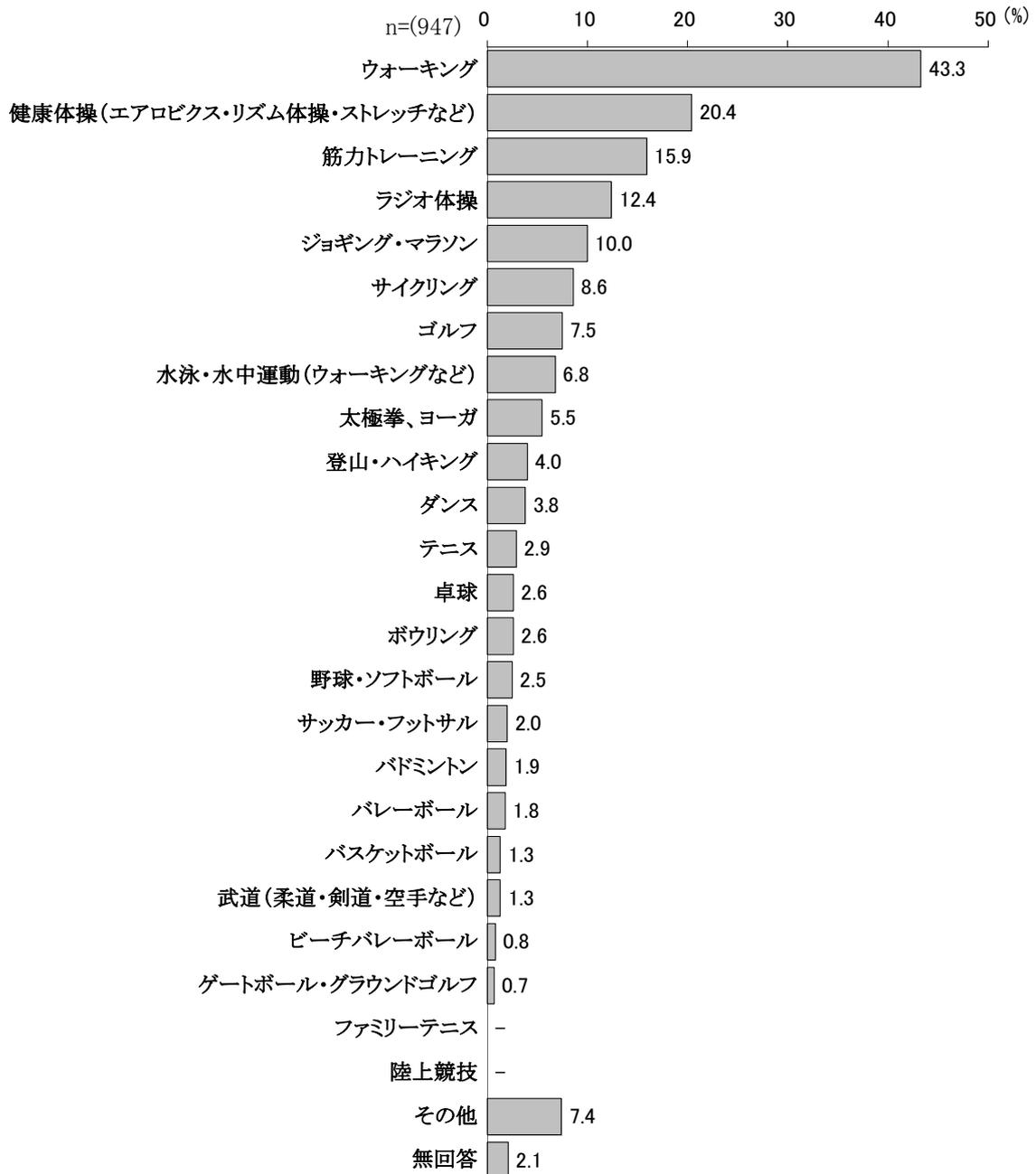
■ 「ウォーキング」が4割台半ばで突出

問22で1～5のいずれかをお答えの方に

問22-1 あなたが最近、継続的に行っている運動・スポーツは何ですか。

(○はあてはまるものすべて)

図6-2-1 継続的に実施している運動・スポーツ



何らかの運動・スポーツを行っている人に、その内容を聞いたところ、「ウォーキング」が43.3%で最も高く、以下「健康体操(エアロビクス・リズム体操・ストレッチなど)」(20.4%)、「筋力トレーニング」(15.9%)の順で続いている。

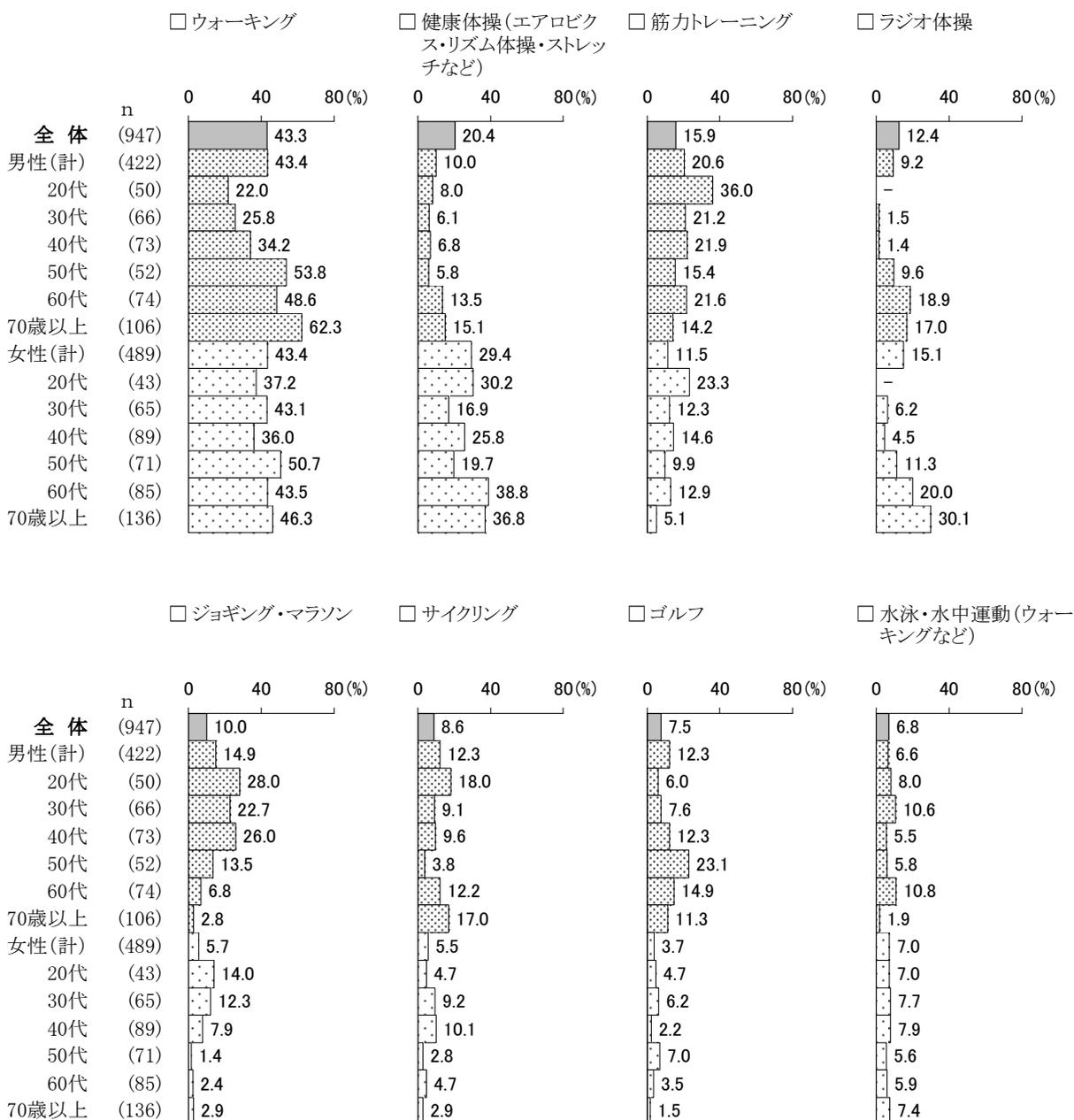
第3章 調査結果の分析 〈スポーツ〉

性別で見ると、男性では「筋力トレーニング」が20.6%と、女性（11.5%）を上回っている。一方、女性では「健康体操（エアロビクス・リズム体操・ストレッチなど）」が29.4%と、男性（10.0%）を上回っている。

性・年代別で見ると、男性では、20代で「筋力トレーニング」が36.0%と、他の年代より高くなっている。70歳以上では「ウォーキング」が62.3%と高くなっているほか、50代、60代でも5割前後となっている。

女性では、20代、60代、70歳以上で各年代とも「健康体操（エアロビクス・リズム体操・ストレッチなど）」が3割を超えている。50代では「ウォーキング」が50.7%を占めているほか、30代、60代、70歳以上でも4割を超えている。

図6-2-2 性別、性・年代別／継続的に実施している運動・スポーツ／上位8項目

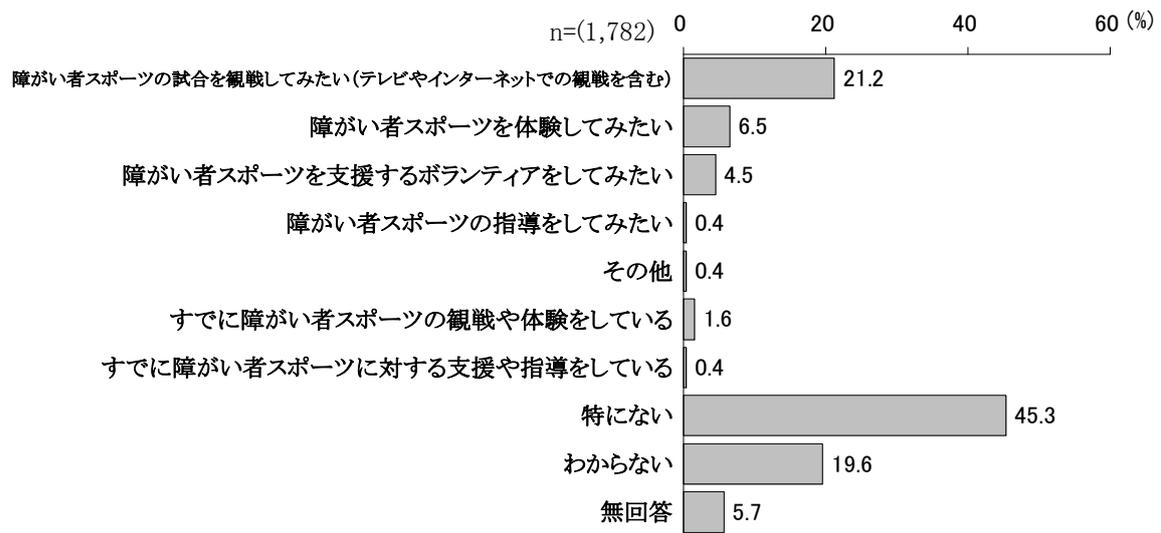


(3) 障がい者スポーツへの意識・行動

■ “観戦してみたい”が2割強

問23 あなたは障がい者スポーツについてどのようなことをしてみたいですか。
(○はあてはまるものすべて)

図6-3-1 障がい者スポーツへの意識・行動



障がい者スポーツについては、「障がい者スポーツの試合を観戦してみたい（テレビやインターネットでの観戦を含む）」が21.2%で最も高く、以下「障がい者スポーツを体験してみたい」（6.5%）、「障がい者スポーツを支援するボランティアをしてみたい」（4.5%）の順で続いている。一方、「特にない」は45.3%となっている。

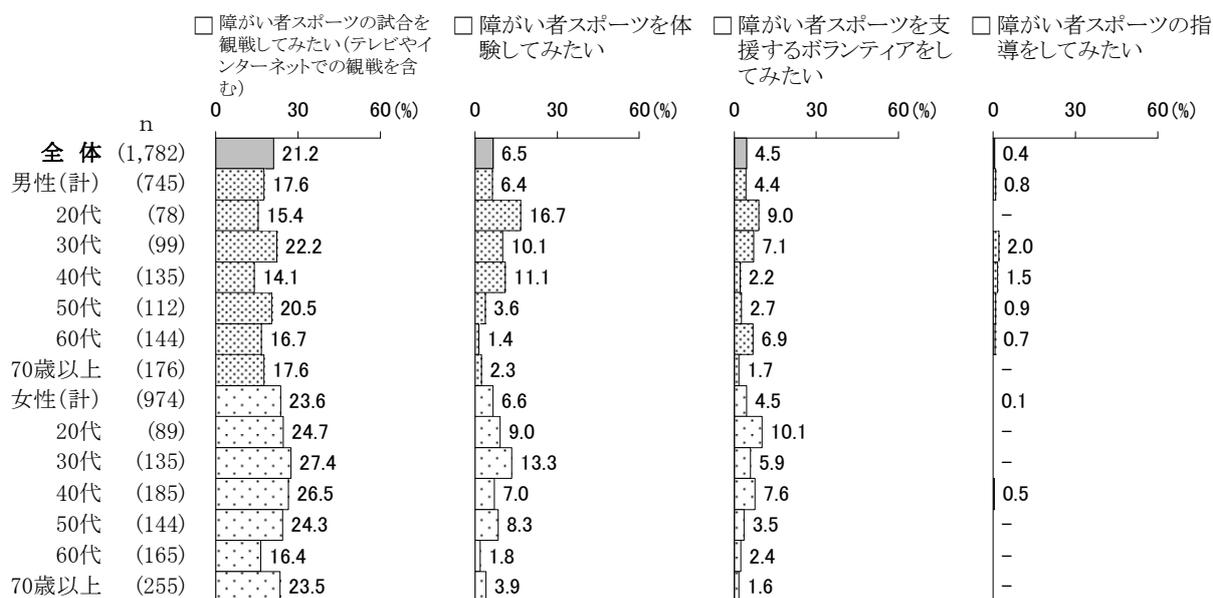
第3章 調査結果の分析 〈スポーツ〉

性別で見ると、女性では「障がい者スポーツの試合を観戦してみたい（テレビやインターネットでの観戦を含む）」が23.6%と、男性（17.6%）を上回っている。

性・年代別で見ると、男性では、30代、50代で「障がい者スポーツの試合を観戦してみたい（テレビやインターネットでの観戦を含む）」が、それぞれ22.2%、20.5%と、他の年代よりやや高くなっている。

女性では、60代を除く各年代で「障がい者スポーツの試合を観戦してみたい（テレビやインターネットでの観戦を含む）」が2割台半ば前後を占めている。

図6-3-2 性別、性・年代別／障がい者スポーツへの意識・行動

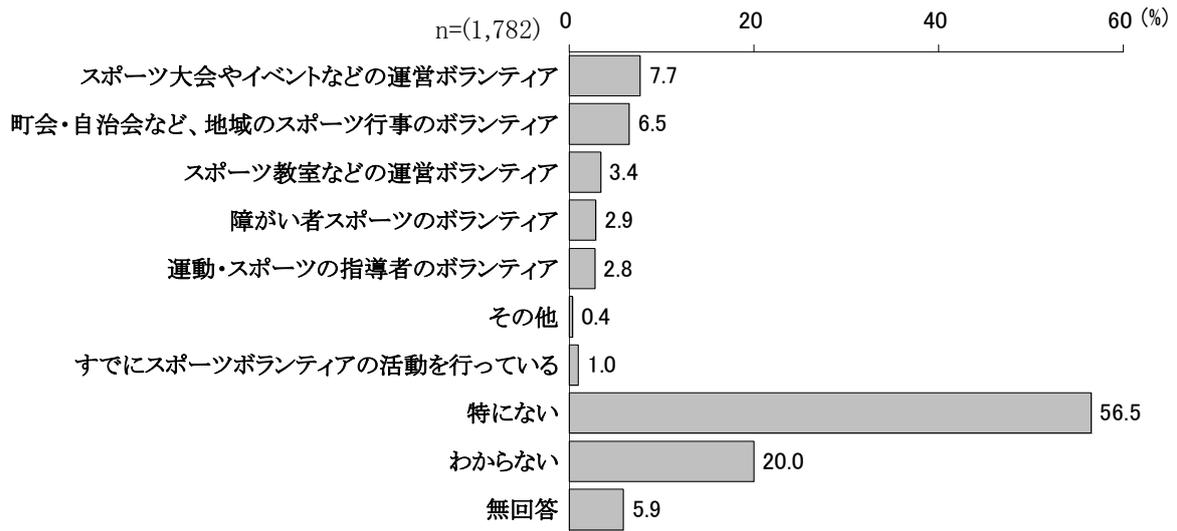


(4) スポーツボランティア活動への意識・行動

■ “運営ボランティア” “スポーツ行事のボランティア” が上位も6～7%

問24 あなたはスポーツボランティア活動についてどのようなことをしてみたいですか。
(○はあてはまるものすべて)

図6-4-1 スポーツボランティア活動への意識・行動



スポーツボランティア活動については、「スポーツ大会やイベントなどの運営ボランティア」が7.7%で最も高く、以下「町会・自治会など、地域のスポーツ行事のボランティア」(6.5%)、「スポーツ教室などの運営ボランティア」(3.4%)の順で続いている。一方、「特にない」は56.5%となっている。

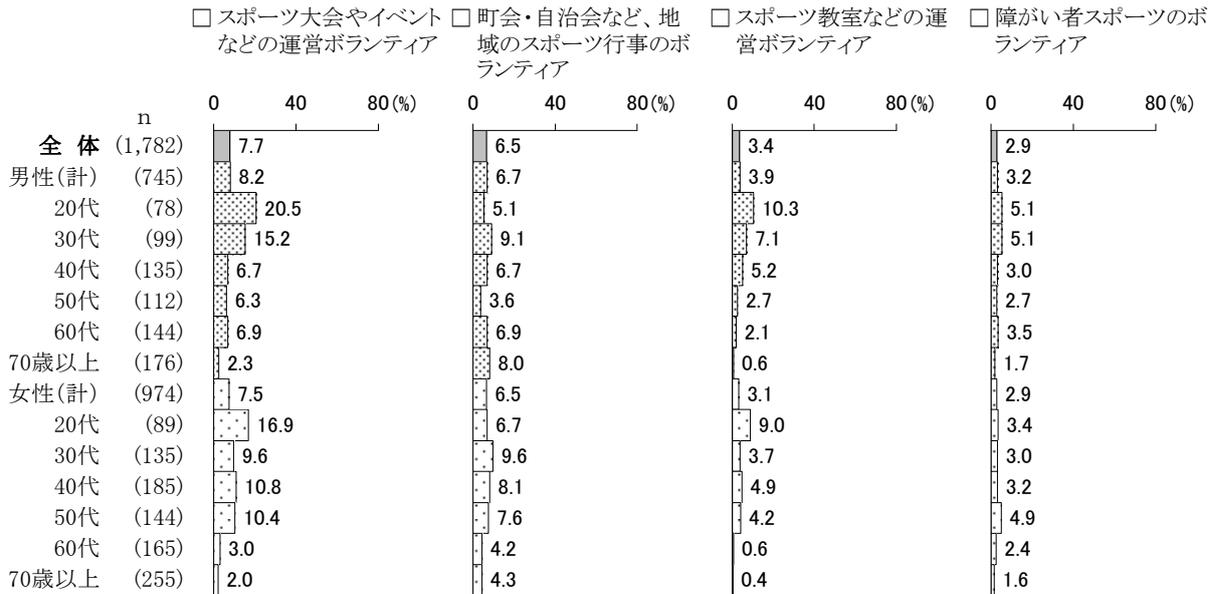
第3章 調査結果の分析 〈スポーツ〉

性別で見ると、大きな男女差はみられない。

性・年代別で見ると、男性では、20代、30代で「スポーツ大会やイベントなどの運営ボランティア」が、それぞれ20.5%、15.2%と、他の年代より高くなっている。

女性では、20代、40代、50代で「スポーツ大会やイベントなどの運営ボランティア」が、いずれも1割を超えている。

図6-4-2 性別、性・年代別／スポーツボランティア活動への意識・行動／上位4項目

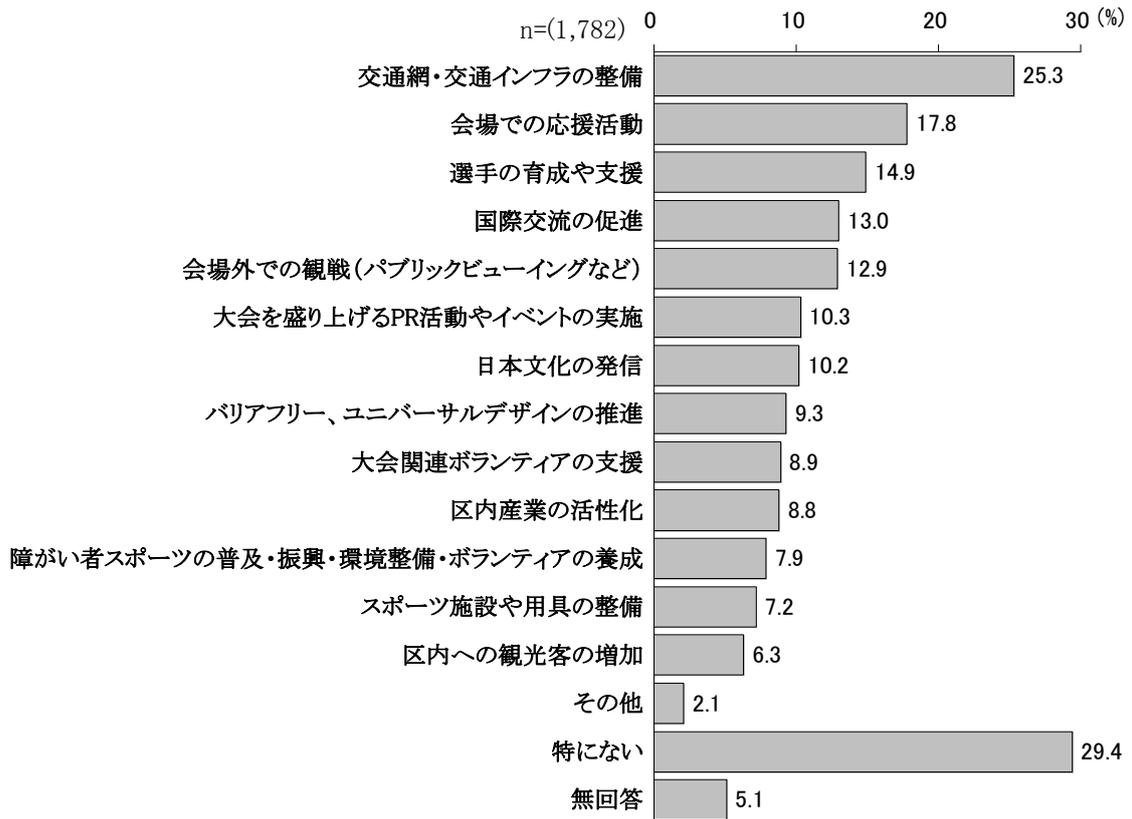


(5) 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた区の実施で関心があること

■ 「交通網・交通インフラの整備」が2割台半ばも、「特にない」が約3割

問25 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、区の実施で関心があることは何ですか（○は3つまで）。

図6-5-1 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた区の実施で関心があること



2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、関心のあることとしては、「交通網・交通インフラの整備」が25.3%で最も高く、以下「会場での応援活動」(17.8%)、「選手の育成や支援」(14.9%)、「国際交流の促進」(13.0%)の順が続いている。一方、「特にない」は29.4%となっている。

第3章 調査結果の分析 〈スポーツ〉

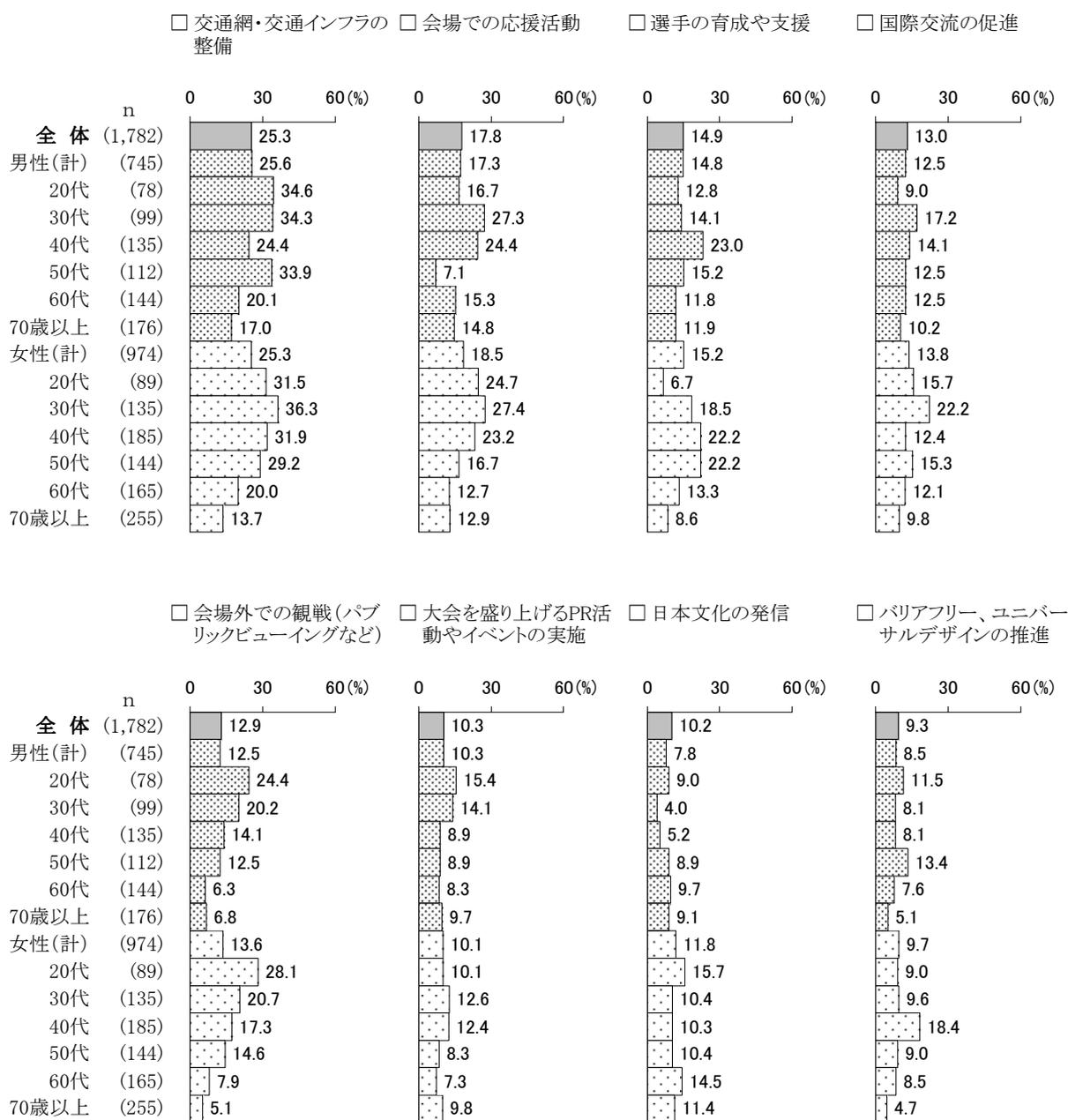
性別でみると、大きな男女差はみられない。

性・年代別でみると、男性では、20代、30代、50代で「交通網・交通インフラの整備」が3割を超えている。また、30代、40代では「会場での応援活動」が、それぞれ27.3%、24.4%と、他の年代より高くなっている。

女性では、30代で「交通網・交通インフラの整備」が36.3%となっているほか、20代、40代でも3割を超えている。また、20代から40代の各年代とも「会場での応援活動」が2割を超えている。

図6-5-2 性別、性・年代別

／2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた区の実施で関心があること／上位8項目

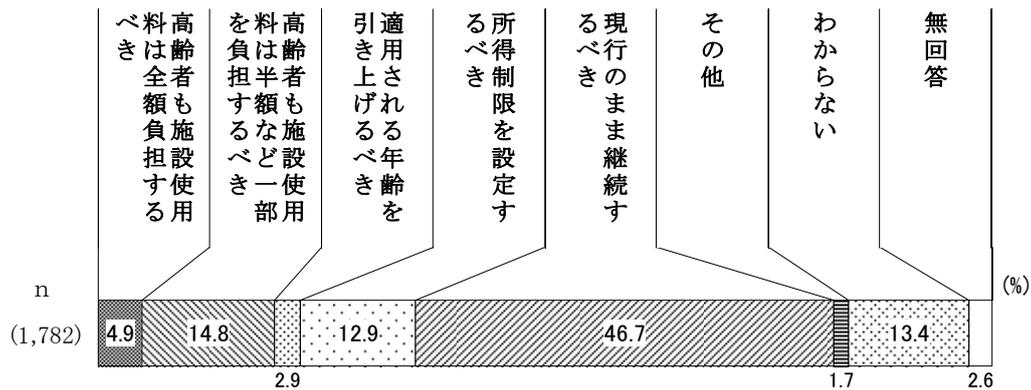


(6) 区のスポーツ施設における高齢者免除制度に関する意識

■ 「現行のまま継続するべき」が4割台半ば

問26 足立区の温水プールは65歳以上、その他のスポーツ施設は70歳以上の区民（高齢者）は無料で使用できます。この高齢者免除制度について、あなたの考えに最も近いものはどれですか（○は1つだけ）。

図6-6-1 区のスポーツ施設における高齢者免除制度に関する意識



スポーツ施設における高齢者免除制度については、「現行のまま継続するべき」が46.7%で最も高く、以下「高齢者も施設使用料は半額など一部を負担するべき」（14.8%）、「所得制限を設定するべき」（12.9%）の順で続いている。

第3章 調査結果の分析 〈スポーツ〉

性別でみると、女性では「現行のまま継続すべき」が49.5%と、男性（43.2%）を上回っている。

性・年代別でみると、男性では、40代から60代の各年代で「現行のまま継続すべき」が5割近くを占めている。

女性では、70歳以上を除く各年代で「現行のまま継続すべき」が5割を超え、とくに20代では58.4%と6割近くを占めている。

図6-6-2 性別、性・年代別／区のスポーツ施設における高齢者免除制度に関する意識

